

## Y21a 「惑星」の「地球」化：用語使用の学術史・政策史的観点からの検討

玉澤春史（東京大学/京都市立芸術大学）

惑星（planet）は恒星の周囲をまわる巨大な天体、太陽系においては地球を含む8この天体のことを指す。定義上惑星はより一般的な内容をさす用語であり、その点を考慮して学術分野として惑星科学が活発になり、従来地学あるいは地球惑科学といわれていたものが地球惑星科学と銘打つことによりより広い範囲を取り込むことが可能になっている。一方で、近年の惑星（planet）の使用例をみると必ずしもそうではないケースがみられる。グローバルヘルスを拡張した概念としてプラネタリーヘルス、都市研究のアプローチとしてプラネタリーアーバニゼーション、また天文学に近い分野でも従来スペースガードとよばれていたものがプラネタリーディフェンスと呼ばれており、これらはかならずしも惑星という地球より一般的な内容をさすというよりは地球という言葉を別の視点でとらえるという意識が垣間見える。思想・哲学でもハイデガーが Planetarisches という使い方をしており、ここでは語源の差から地球とは区別して使用している。また Yuk Hui が Planetarization といってグローバルゼーションと区別して使用している。天文学研究者のもつ「惑星」に関するイメージと必ずしも一致しない使用例があるが、天文学における概念整理後の使用、あるいは翻訳整理後の使用のあとに他分野で流用される例の一つともいえる。